



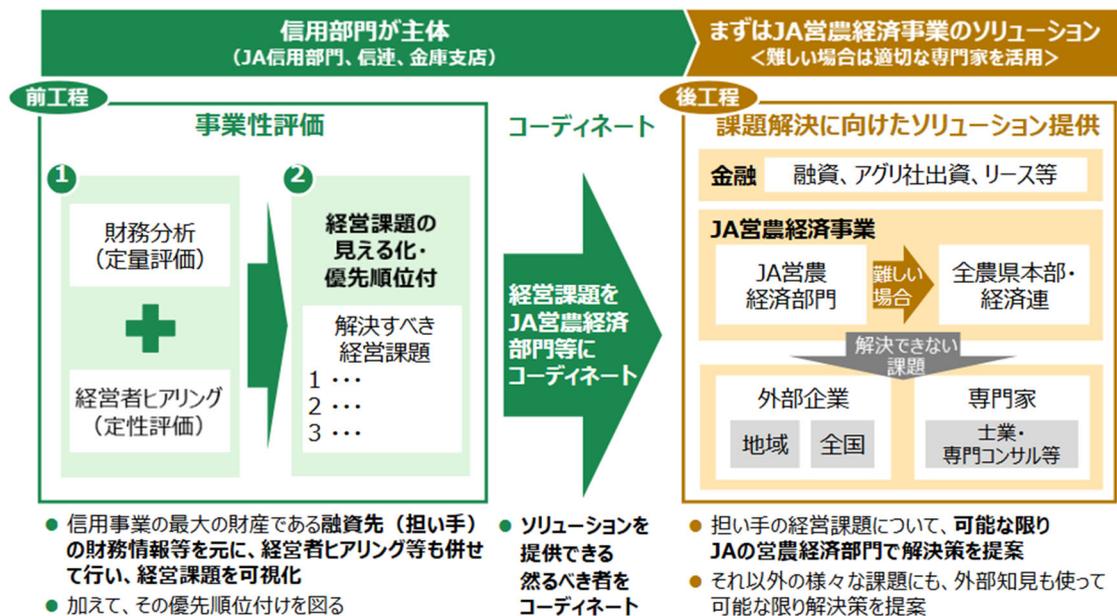
「担い手コンサルティング」累計 1,000 件達成について

地域の中核を担う農業者をはじめとする多様な担い手（以下「担い手」という）の経営課題解決に向けて、JA バンク（JA・JA 信農連・農林中央金庫（以下「当金庫」という））が取り組みをすすめてきた「担い手コンサルティング」の実施件数が、2021 年から全国累計 1,000 件に到達しましたのでお知らせいたします。

1. 「担い手コンサルティング」とは

JAバンクでは、2021 年度から、担い手が抱える様々な経営課題（規模拡大、販売戦略、資金繰り、事業承継、法人化、労務管理など）に対しソリューションを提供する「担い手コンサルティング」に取り組んでいます。

本取り組みは、JA の信用事業部門（金融事業）・JA 信農連・当金庫が主体となり、担い手の財務分析やヒアリングを通じた事業性評価を行い、そこで明らかになった経営課題に対してソリューションを提供するものです。このソリューションは、JA の営農経済事業部門などとも連携することで、JA グループが持つ総合力を発揮して、金融に留まらない幅広い提案を行う点が特長です。また、ソリューションを提案した後も、課題解決に向けた取組進捗のフォローなど、継続的な担い手へのサポートに取り組んでいます。



2. 1,000 件達成の背景と成果

高齢化や環境変化など、担い手の課題が多様化・複雑化する中、JAバンクは地域に根ざし、総合事業の強みを活かして担い手の支援を継続してきました。また、質の高い担い手支援を継続的に提供するため、分析の効率化やノウハウ蓄積も行ってきました。こうした JA・JA 信農連・当金庫が一体となった取組みを継続してきたことで、2021 年度 186 件、2022 年度 301 件、2023 年度 306 件、2024 年度 349 件と着実に実績を積み重ね、今回の節目に至りました。

担い手コンサルティング実施件数



本取組みを行った担い手の所得は、累計で 5.3 億円向上いたしました。また、担い手の JA 利用の拡大にもつながるなど、JA グループとの関係強化にもつながっています（具体的な事例は別紙のとおり）。

3. 今後の展望

JAバンクは今後も担い手の皆さまを支えるパートナーとして、支援体制のさらなる強化と高度化を図るとともに、農業の持続的発展に貢献するべく、農業におけるデータ利活用や、営農経済事業部門や共済事業との一層の連携強化により、JA グループ一体となった担い手支援を継続いたします。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 経営企画部 広報コミュニケーション班
(藏方・丹羽) Tel : 03-6362-7172

(別紙) 取組事例

1. 栽培する品目の作付面積の最適化と営農マニュアルの作成支援（栃木県）

- 栃木県大田原市で、“循環型農業”を強みに肉牛肥育、WCS（※）用を含む水稻、アスパラガスの生産を複合的に営む「㈱イソシンファーム」（以下「当社」）に対して、当金庫と栃木県開拓農協が共同でコンサルティングを実施しました。
- 事業承継を見据えた長期ビジョンを策定するとともに、固有業務の棚卸や品目別収支分析を行い、それぞれの品目の作付面積の最適化策等のソリューションを提案、適切な営農計画の策定と実践を通じた生産性向上・収支改善を目指します。
- 足元では、営農マニュアルの作成支援を行い、次世代への営農技術の継承に向けたフォローを継続しています。当社の一層の所得（収益）向上に向けて、引続き、当金庫と栃木県開拓農協の連携による金融・非金融の支援を継続していきます。

（※） 稲発酵粗飼料。稲の穂と茎を同時に刈り取ってロール状に成型し、乳酸発酵させた牛の飼料のこと



▲牛舎の様子

2. 栽培するりんごの品種構成の見直しおよび早期出荷提案（長野県）

- 地域の中核的な担い手として、「高密度植わい化」という栽培手法でりんご生産を営む米本氏に対し、JA 上伊那・長野県信連・当金庫が連携し、担い手コンサルティングを実施しました。
- 品種別収支分析や収支シミュレーションを通じて、栽培するりんごの品種構成の見直しや有利販売に向けた早期出荷を提案しました。現在は、赤字品種から収益性の高い新品種への改植が進んでおり、「ふじ」の早期出荷では販売単価アップに加えて、JA からの販売奨励も獲得するなど、コンサルティングによる収益拡大が徐々に実現しています。
- コンサルティングを通じて、「JA と率直な意見交換をしやすい関係になり、コンサルティング終了後も、経営状況 やソリューションの進捗状況を客観的に見てもらえるようになった」と感謝と評価をいただいています



▲りんご栽培の様子